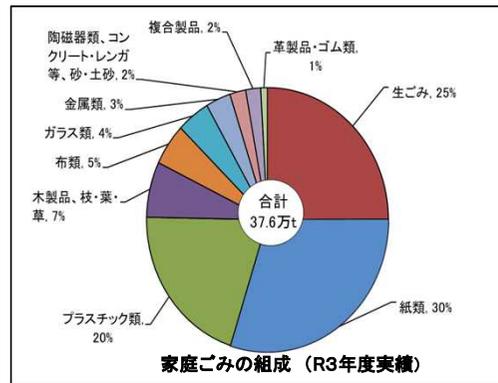


●家庭の生ごみ減量

家庭に占める生ごみの排出割合

- 家庭ごみのうち、生ごみは25%を占めている。
- 生ごみには食品ロスと調理くずが含まれており、調理くずが生ごみの8割近くを占めている。
- 調理くずは水切りによって減量を図ることができ、さらに堆肥化することで肥料として活用できるため、ごみ減量に向けて様々な取組を実施している。



生ごみ減量の取組

○生ごみ処理に関する助成

- 家庭から排出される生ごみの減量に向けて、生ごみの堆肥化や乾燥を促進するため、電動生ごみ処理機と生ごみ堆肥化器材の助成を平成24年度から行っている。
- 令和3年度には、電動生ごみ処理機が361個、生ごみ堆肥化器材は461台の助成を行った。



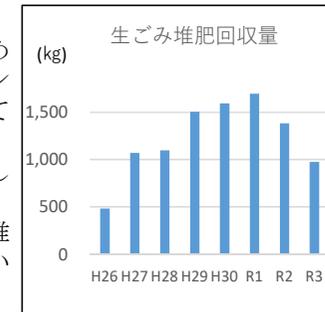
○堆肥化セミナー、生ごみ堆肥化相談窓口

- 生ごみ堆肥化の作り方と作った堆肥の活用方法を市民に伝えるセミナーを開催しており、市民へ生ごみの減量の実践を促している(年40回程度)。
- 相談窓口では、生ごみ堆肥化に関する個別の相談に応じており、年間で200件ほどの相談が寄せられている。



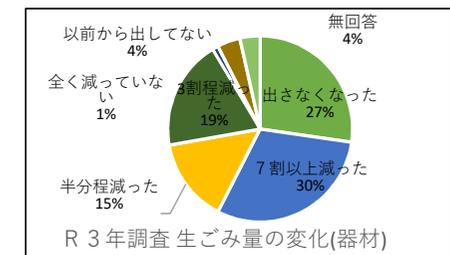
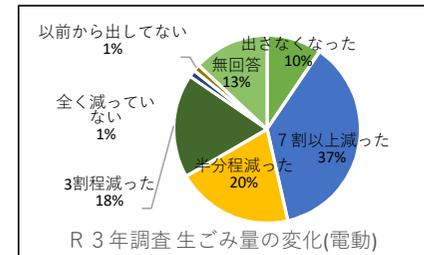
○生ごみ堆肥の回収

- 生ごみの堆肥の使い道が無い方のために、市内4か所の地区リサイクルセンターで生ごみ堆肥の拠点回収を行っている。
- 回収した生ごみ堆肥は、二次処理をして市内の畑で活用している。
- また、期間限定で持ち込んだ生ごみ堆肥を野菜と交換できる事業を行っている。



生ごみ減量効果の調査

- 毎年、前年度に生ごみ処理に関する助成を行った方に状況を確認するためアンケートを実施し、生ごみの減少量や活用方法等について調査している。
- アンケート結果では、電動処理機や堆肥化器材の助成を受けた方はともに生ごみの排出量がかなり減少しており、取組による効果は高いと考えている。



解決すべき課題

○生ごみ堆肥及び生ごみ減量の普及・促進について

- 生ごみ堆肥化セミナーの参加者は60代以上が多く、幅広い世代への浸透が必要である。また、堆肥化の取組を行っていない方は市民全体で6割おり、その中には集合住宅の居住者など堆肥化が難しい世帯もいるため、手軽にできる取組を検討していく必要がある。

○助成者の継続率の向上について

- 電動処理機の助成対象者は堆肥化器材と比べて継続率が低いため、どのように継続率の向上を目指していくか検討が必要である。

